

# こにも演奏の場

## ニユース らうんじ

フシツクの音楽指導者 々に表の舞台から去っていくのが現状。そんな中、「もっと演奏の場を」という声に大手の楽器メーカーが協力、年齢制限のないコンサートが札幌市「さん」に道を譲り、徐々で実現した。今秋で4回目と軌道に乗ってきた。

# 年齢制限なし 年2回

## 札幌の大手楽器メーカー協力

はヤマハミュージック  
北海道札幌店ヤマハミ  
ュージックコンサート  
係(011・512・6111)へ。



から離れた。子どもが小学校に入っただのを機に、7年前から野谷さんに師事し、今年の日本クラシック音楽コンクール



⑤今春のコンサートには中川洋子さん(左)も参加した＝札幌市中央区のヤマハセンターで  
⑥野谷恵さん＝札幌市中央区で

ル北海道本選で優秀賞を受けた。「音楽に打ち込みたい時期は人によって様々。年齢制限がないコンクールがたくさんある方がいい」

今回参加する疾風矢さん(27)は留萌支庁小平町の養護学校で音楽を教えている。「いろんな年の方と競演できる機会は貴重。自分が将来年を重ねても、発表の舞台があるのはうれしい」と話す。

音楽会の出演者には年齢制限がある場合が多い。札幌の場合、道立三岸好太郎美術館で年数回開かれるミニリサイタルは「若手の発掘が主眼」のため、35歳まで。市教育文化会館で毎年秋に開かれている市民芸術祭新人音楽会も、作曲部門を除き30歳が上限だ。

年1回、声楽、ピアノ、管・弦・打楽器の順で開かれている北海道国際音楽交流協会(HIMES)の「HIMESコンクール」も同様だ。今年は声楽の番で、参加資格の上限は「73年1月1日以降」生まれだった。

同協会の西村公男事務局長(67)は「若手にチャンスをと、というのが本来の趣旨。でも個人的には、意欲がありこ

れから」というベテランが参加してもいいのかな、という気がする」と話す。

ヤマハ社の札幌店には200人を収容できるホールがあり、地域貢献を検討していた。そこに野谷さんから提案を受けた。同社営業部の担当者には「オープンなコンサートという発想に共感しました。地域に音楽を普及させていくことは、今後につながりますから」。

参加する演奏家から参加料を集め、チケットを配布前売り2000円のをチケットを全部売ると参加者にももうけが出る、という仕組みだ。チラシや当日のパンフレットなどの費用はヤマハ側が負担する。毎回7、8組が登場し、1組が5、15分演奏する。出演者は募集もするが、口コミで問い合わせが来る場合も少なくない。野谷さんは「先生が舞台上立つ姿をお弟子さんが見て『カッコいい』と思ってくれたら。すそ野が広がり、演奏家のレベルアップにもなる」と話している。

(報道部・豊岡亮)